

肝機能障害について (肝炎の疫学)

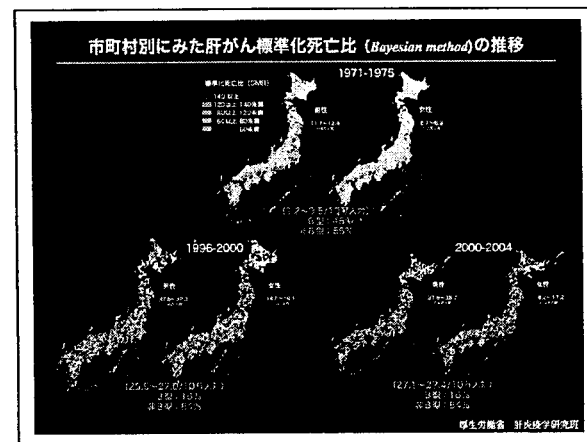
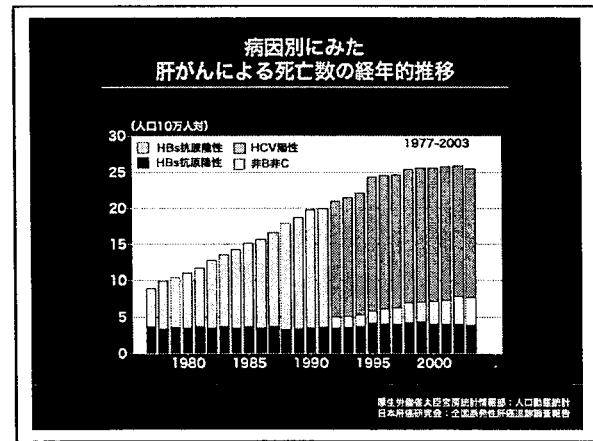
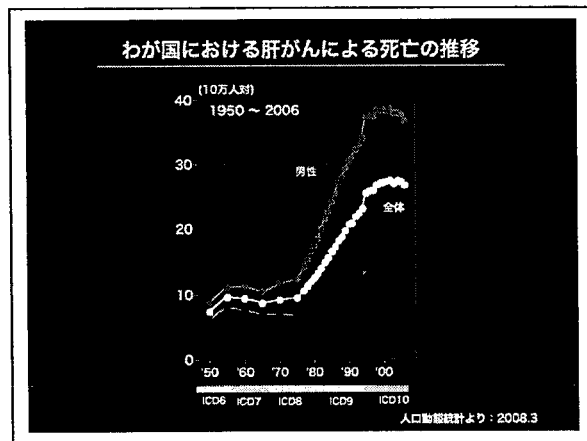
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科 疫学・疾病制御学

田中 純子

2008.11.17

ウイルス肝炎の病型と病原ウイルス

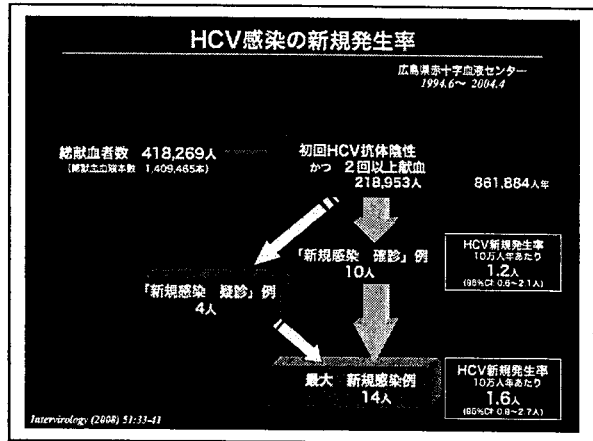
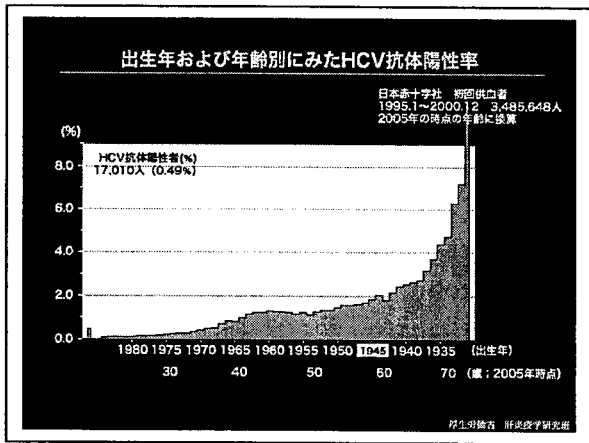
病型(旧名)	ウイルス	感染経路	慢性化の有無 (持続感染)	肝臓との 関係の有無
伝染性肝炎 (流行性肝炎)	A型(HAV)	経口	無	無
	E型(HEV)	経口	無	無
血清肝炎	B型(HBV)	血液	有	有
	C型(HCV)	血液	有	有
デルタ肝炎	D型(HDV)	血液	有	?



初回供血者における出生年、年齢別にみた HBs抗原陽性率 および HCV抗体陽性率

	日本赤十字社 初回供血者数	HBsAg 陽性者数(%)	HCV抗体 陽性者数(%)
1995~2000年 献血群 (1995.1~2000.12)	3,485,648人	22,018人 0.63%	17,010人 0.49%
		95%CI (0.62~0.64)	(0.48~0.50)

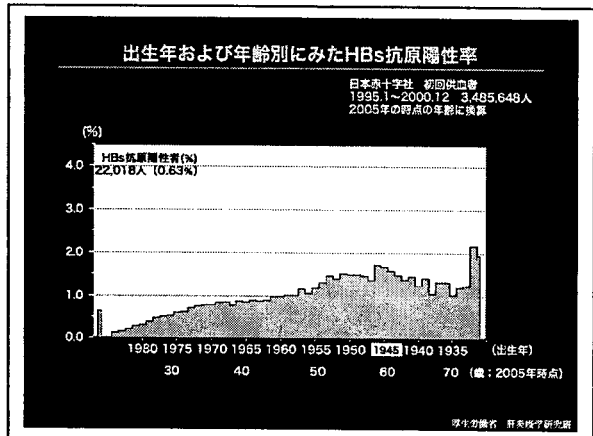
厚生労働省 肝炎疫学研究会



HCV感染の新規発生率

地域	供血者		定期健康診断受診者	障害者・老人福祉施設入所者
	広島	大阪	広島	静岡
	1992~1995	1992~1997	1992~1995	1988~1992
対象者	114,266	448,020	3,079	678
キャリア化	3	59	0	0
観察人年	168,726	1,095,668	5,786	2,712
Incidence	1.8/10万人年	5.4/10万人年		
95%CI	0.4-5.2	4.1-7.0	0-0.6	0-1.3

※抗体陰性



B型肝炎ウイルス (HBV) 母子感染予防の実施数とキャリア化阻止率の年次推移

出生年	実施数	キャリア化阻止率 (%)
治療による予防		
1980	8	7 (87.5)
1981	19	18 (94.7)
1982	25	24 (96.0)
1983	35	34 (97.1)
1984	85	83 (91.5)
Subtotal	172	166 (96.5)
予防接種		
1985	84	85 (90.4)
防止率確知による予防施設別別		
1986	94	85 (90.4)
1987	94	88 (93.6)
1988	85	83 (97.8)
1989	93	91 (93.8)
1990	94	90 (95.7)
1991	89	81 (91.0)
1992	77	74 (96.1)
1993	61	80 (98.8)
1994	57	57 (100.0)
Subtotal	764	729 (95.4)
Grand total	1,030	980 (95.1)

厚生労働省 肝炎疫学研究所

HBV母子感染防止事業開始前後に出生した児童におけるHBs抗原、抗体陽性率の推移

出生年	対象数	HBs抗原陽性率 (%)	HBs抗体陽性率 (%)
事業前 (1979-1980)			
1978	2,666	28 (0.94%)	52 (1.95%)
1979	4,212	27 (0.64%)	72 (1.71%)
1980	3,559	25 (0.70%)	35 (0.98%)
Subtotal	10,437	78 (0.75%)	159 (1.52%)
事業による予防 (1981-1985)			
1981	2,541	12 (0.47%)	30 (1.18%)
1982	1,594	4 (0.25%)	12 (0.75%)
1983	3,847	6 (0.15%)	17 (0.44%)
1984	5,206	11 (0.18%)	58 (0.93%)
1985	6,624	13 (0.20%)	48 (0.72%)
Subtotal	20,812	46 (0.22%)	165 (0.79%)
事業開始以降 (1986-1990)			
1986	6,775	3 (0.04%)	41 (0.61%)
1987	6,505	4 (0.06%)	62 (0.95%)
1988	6,310	2 (0.03%)	58 (0.92%)
1989	8,438	2 (0.03%)	64 (0.71%)
1990	6,023	1 (0.02%)	67 (1.11%)
Subtotal	32,049	12 (0.04%)	274 (0.85%)

厚生労働省 肝炎疫学研究所

HBs抗体が陽性であった児童におけるHBe抗体陽性率の推移

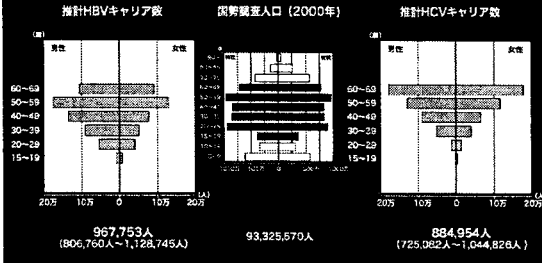
出生年	HBe抗体陽性数/HBs抗体陽性数 (%)	
実測値 (1978-1980)		
1978	40 / 49	(81.6%)
1979	64 / 72	(88.9%)
1980	23 / 34	(76.7%)
Subtotal	127 / 155	(81.9%)
浩哉による実測 (1981-1985)		
1981	23 / 30	(76.7%)
1982	9 / 12	(75.0%)
1983	6 / 14	(42.9%)
1984	18 / 58	(31.0%)
1985	12 / 43	(27.9%)
Subtotal	68 / 157	(43.3%)
幸典則始収録 (1986-1990)		
1986	10 / 41	(24.4%)
1987	11 / 61	(18.0%)
1988	9 / 58	(15.5%)
1989	6 / 46	(13.0%)
1990	6 / 67	(9.0%)
1991	7 / 62	(11.3%)
1992	2 / 72	(2.8%)
1993	5 / 63	(7.9%)
1994	3 / 66	(4.5%)
Subtotal	59 / 536	(11.0%)

厚生省 疫学調査研究班

厚生省 疫学調査研究班

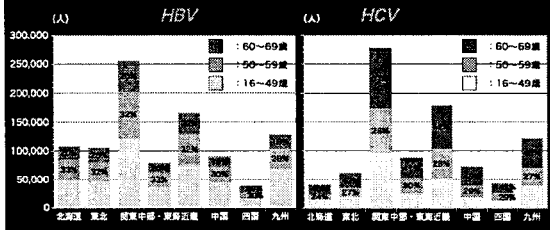
わが国の人口ピラミッドと年齢階級別にみた推計HBVキャリア数、HCVキャリア数

自覚症状がないうま潜在している15~69歳の年齢層における推計値

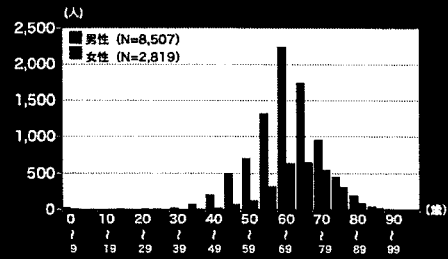


地域別・年齢階級別にみた推計HBV・HCVキャリア数

HBV・HCVキャリア数は関東、近畿、九州地区の50歳以上の年齢層に偏在する

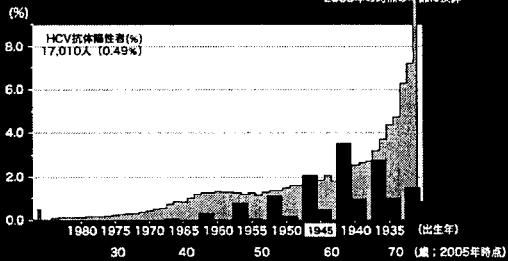


臨床的に原発性肝がんと診断された年齢



出生年および年齢別にみたHCV抗体陽性率

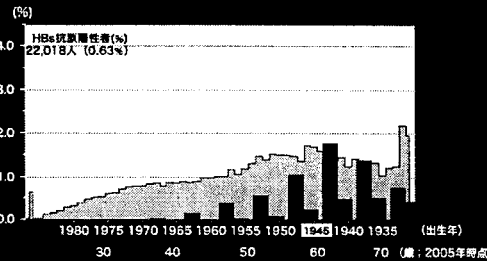
日本赤十字社 初回献血者
1995.1~2000.12 3,485,648人
2005年の時点の年齢に換算



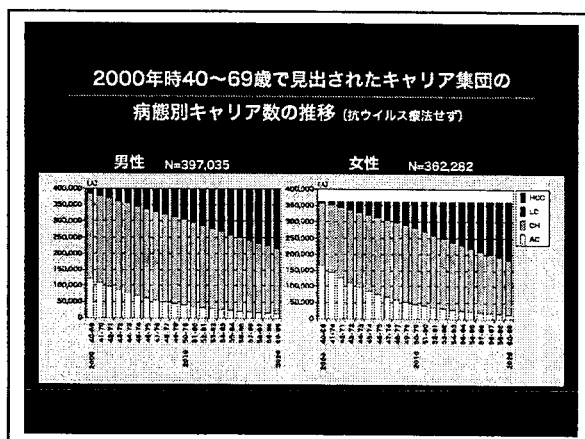
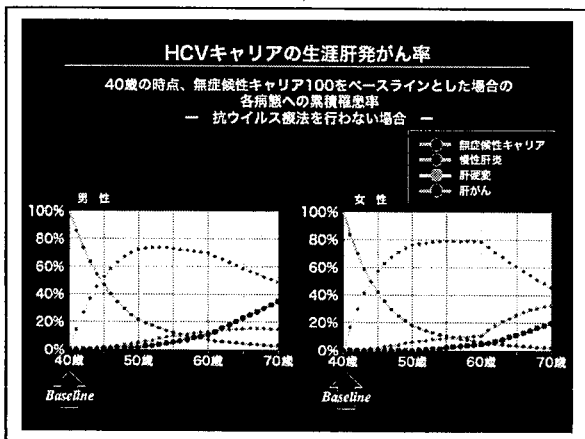
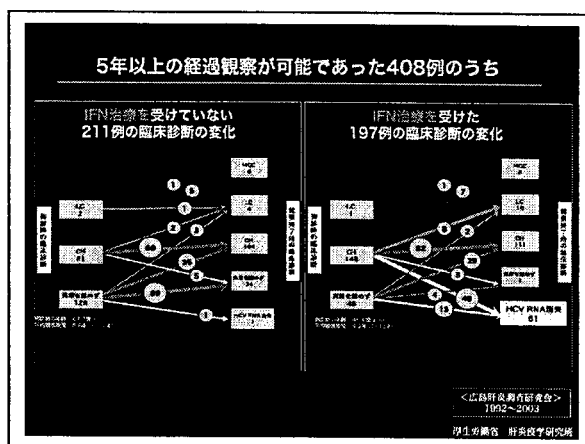
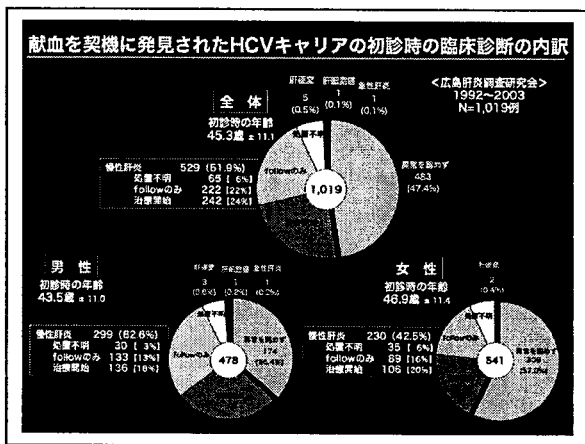
厚生省 疫学調査研究班

出生年および年齢別にみたHBs抗原陽性率

日本赤十字社 初回献血者
1995.1~2000.12 3,485,648人
2005年の時点の年齢に換算



厚生省 疫学調査研究班



肝炎ウイルス検診

期 間: 平成14～18年度 (2002.4～2007.3)
目 的: 肝炎による健康障害の回避
肝発がんの予防、早期発見による肝がん死亡の減少

対象ウイルス: C型肝炎ウイルス (HCV)
B型肝炎ウイルス (HBV)

実 施 方 法: 節目検診 40歳から70歳まで5歳毎
節目外検診 肝炎ウイルス感染のリスクが高いと
考えられる集団

B型肝炎ウイルス検査	受診者	8,704,587人
	HBVキャリア数 (%)	100,983人 (1.2)
C型肝炎ウイルス検査	受診者	8,634,509人
	HCVキャリア数 (%)	99,850人 (1.2)

